

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	やっぱり、すごいね木曾漆器!! 魅力再発見事業
事業主体 (連絡先)	木曾平沢区自治協議会 会長 宮原 正
事業区分	⑥産業振興、雇用拡大に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	3,345,000 円 (うち支援金: 2,676,000 円)

事業内容

1、木曾漆器ワークショップ

全年齢層を対象に、6月の木曾漆器祭と夏休み期間中、10月の秋の漆器祭の計3回、塗り箸絵付け体験のワークショップを実施した。

2、工房見学(重要伝統的建造物群見学)

6月の木曾漆器祭と10月の秋の漆器祭にて実施。木曾漆器の職人との対話や、重要伝統的建造物群案内の機会を作った。

3、木曾漆器テーブルウェア展示

6月の木曾漆器祭にて実施。木曾漆器を現代の暮らしの中でどう活用するかが分かるように見本空間を展示した。

4、漆器PR関連物 調査・制作

年間を通じた地域の漆器ブランド告知のため、のぼり旗と車貼付用ステッカーを作成し設置・貼付した。漆塗りの技術が使われる山車の修繕調査も行った。

5、イベントPR広報

6月の木曾漆器祭にて、SBCラジオ番組内で木曾漆器の魅力発信した。さらに10月の秋の漆器祭の各種イベントPRのために、信濃毎日新聞へ新聞広告を出稿した。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎

1、前回は上回る、延べ111名の参加者があり、漆塗りを実際に体験し、関心を高めてもらうことができた。

2、延べ1,200名ほどの参加者があり、参加者が伸びた。漆器や重伝建への関心の高まりが伺えた。

3、今回は6月のみの実施となったが、400名ほどの見学者があり、漆器の展示について、インテリアや食器に関心のある若い女性からの評価が特に高かった。

4、イベント開催時や日常生活において、のぼり旗やステッカーを活用してもらい、木曾漆器のPRにつながった。山車の修繕についても目途がつき、今後の活用が見込まれる。

5、春と秋の2回、ラジオ・テレビを使い漆器の魅力を伝えることができた。

(活動写真)



【木曾漆器ワークショップ】

【目標・ねらい】

- ① 地域を担う子供にはキャリア教育として、地元の大人の方々にはあらためて、木曾漆器の魅力を発見して頂く。
- ② 観光客には木曾漆器の魅力を新たに感じてもらい、再来訪の機会を拡大したい。
- ③ 継続事業の3年目として、育ってきた各種企画・木曾漆器ブランド等をさらに認知拡大させたい。

※自己評価 【A】

【理由】

継続事業の1~3について、参加者が前年を上回り、それぞれ過去最高を記録した。新たに実施した、山車の修繕調査やステッカー制作も今後の漆器PRに活用できることとなった。テレビ・ラジオ・新聞などの媒体を使った広報についても、漆器の魅力を全県にPRするいい機会となった。

### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

事業継続により、木曽漆器のブランド力は年々向上してきている。しかし、漆器産業の従事者が高齢化しており、次世代を担う人材の確保・育成についての取り組みが求められている。今後は、向上した木曽漆器のブランド力を活かし、人材育成や、県内外からの人材流入についての取り組みを検討したい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある